

## あったあった！ 笑い声あふれるタケノコ掘り 永野小PTA

3月22日、永野小PTAでは希望者を対象にしたタケノコ掘り教室が求名橋掛の小森勝家さんの竹林で開催されました。

当日は、晴天に恵まれ親子75名が参加。

勝家さんが「雨が降らないときはポンプで水を上げます。」と日頃の手入れについて、また奥さんの妙子さんが「黄色のタケノコが緑のタケノコに比べてやわらかくて大きい」とタケノコの見分け方について子どもたちに説明していました。また今回は町内にホームステイしていた台湾の留学生陳怡文さん、タイの留学生ワッチャラー スヤラーさんも一緒に参加し初めてのタケノコ掘りを楽しみました。

約2時間の体験でしたが、みんな持ちきれないほどのタケノコをかかえ大収穫でした。



▶タケノコを傷つけないように掘っています

## タケノコ家族は 大所帯

3月24日、羽有幸彦さん所有の竹林で60cm四方の一箇所に、30本のタケノコが生えているのが確認されました。

前日の23日に羽有さんが、地面から少し頭を出したタケノコを掘りはじめたところ、後から次々に現れ大小合計30本が見つかりました。

羽有さんは、「長い間タケノコを掘っているがこんなに群生しているのを見つけたのは初めて。最初は上段をかごとと思ったら、後から後からタケノコが出てきて驚いた。もうこんなことはないでしょう。」と感想を話していました。

1本の地下茎から生えているかは確認できませんでした。が、密集していることから地下茎が付近に集中しているものと思われます。



◀羽有さんと密集したタケノコ

## びびい箱



〔作文〕(学年は旧学年です)  
卒業を前に思うこと

薩摩中三年 紺屋真理恵さん  
薩摩中学校の体育館の前で、初めて見る友達の制服姿に新鮮さを感じながら入学式を迎えたのは、もう三年前のことになりました。すべてが経験したことがないことばかりで、五十分授業に慣れるのも、帰りの学活のあと部活に行くことも、初めてでした。いろいろな行事も小学校とは違い、生徒が中心に活動する中で、先輩方の団結力や行動力に驚き、尊敬しました。

二年になると、「後輩」ができて、それぞれに先輩としての自覚が出てきました。クラスでは、一年のときよりも全員で何かに取り組む姿勢が良くなり、合唱祭やクラスマッチでは三年生に、体育大会ではお互いに負けないようにと放課後も全員で練習しました。

そして何より思い出として残っているのが修学旅行です。原爆資料館や、被爆者の方の話を聞いたりするなど学ぶときには真剣に、スペースワールドや自主研修など楽しむときはおもいきり楽しみ、中学校の一大イベントを、けがなどもなく大きな思い出として残すことができました。何かと忙しかった二学期も終わると、それぞれの進路についても考えるようになりました。夢に向かって自分に合った高校や職業を調べたりしました。部活や、生徒会も三年生から二年生へ引き継がれ、いよいよ薩摩中のリーダーのバトンが私たちに渡されました。

三年になるとすべてが中学生生活の最後になり、自分たちにとって思いに残るようにすることはもちろん、薩摩中全体を引っ張っていけるようにという意識も出てきました。

また、それぞれが高校入試へ向けて関心を持ち、志望校合格を目指して勉強しながら活動しました。まずほとんどの部活動が三年生最後の大会を向かえました。県大会への出場はできませんでしたが、ベストを尽くせたいと思います。

秋には体育大会の準備や応援団練習も計画を立て、自分